

4月2日の説教要旨

「ロバに乗った柔和な王」

山本一牧師

ルカによる福音書19章28-40節

●桜が満開の季節を迎えました。日本三大桜の一つ福島県の枝垂れ桜「三春の滝桜」は柔らかな細い枝であっても風雪にも折られず、可憐な花を咲かせ続け、その樹齢は千年と言われています。伊丹の端ヶ池公園にもこの「三春の滝桜」が植樹されていますが、まだ若く、とても弱々しく見えました。けれども、このか細い幹にも大木になる可能性が秘められていると思うとその命の不思議さを感じ、励ましを与えられました。

一見、弱々しく見えるその中に強さがあり、逆に一見強そうに見える存在が内に脆さを持っているということもあります。今日の聖書に描かれたイエス様の姿には、まさに弱々しく見えるその中に秘められた強さがあることを覚えたいのです。

●今日の聖書はイエスさまのエルサレム入城の場面です。この場面で最も印象的なのはイエス様が強く大きな馬ではなく「子ロバ」に乗って入場されたということです。これは預言者ゼカリヤが「あなたの王が来る。彼は高ぶることなく、ろばに乗って来る」と言った言葉を思い起こさせます。

この「高ぶらない」という言葉は「アニー」というヘブライ語で、ギリシャ語に訳すと「ブラウース(柔和)」という言葉になります。つまりロバに乗ったイエス様の姿は「柔和さ」の象徴なのです。そしてこのヘブライ語の「アニー」は元々「アーナー」(苦しむ・悩む)という意味を持っており、単なる謙遜やおとなしさではなく、「抑圧にめげない芯の強さ」を示しているのです。

●今日の聖書が描いているロバに乗ったイエス様の姿は、弱々しく見えます。そしてこの後のイエス様の十字架へと向かう受難の歩みは、最も無力な人間の姿を表しています。しかし、このイエス様の受難の姿(アニー)には、父なる神への信頼と希望が隠されています。そして、その神への信頼と希望は十字架においても失われず、イエス様を復活の栄光へと導いたのです。

●「あなた方は外面的なものではなく、柔和で穏やかな霊と言う朽ちないものを心の内に秘めた人でありなさい。これこそ神の前でまことに価値があることです」(ペトロ 3:3-4 共同訳)

表面的な強さや美しさは必ずや失われていきます。私たちはそれらを追い求めるのではなく、ロバに乗った主が示された「神への信頼と希望」、イエス様の「柔和な霊」をこそ求めて歩む 2023 年度の歩みといたしましょう。